

エネルギー応用研究所 バイオ技術グループ研究員 NPOセミナーで講演 中部電力での環境保全に関する取り組みの紹介

平成22年10月1日、ウインク愛知(愛知県産業労働センター)でNPO東海地域生物系先端技術研究会が主催する「持続的農林水産業の推進と生物多様性の維持」に関するセミナーが開催されました。このセミナーにエネルギー応用研究所 バイオ技術グループの濱田さん、津田さん、鈴木さんが講師として招かれ、それぞれ取り組んだ生物多様性保全に関連する研究内容を講演しました。

聴講いただいた大学、県試験場の研究者等の方々から、多くのご意見・ご質問があり、COP10開催を間近に控え、生物多様性の関心が高まっていることを肌で感じました。

また、一般のお客さまや幅広い分野の方々との意見交換ができ、当社の取り組みをご理解いただけたため、貴重な体験を得ることができました。



講演会場の状況(約30名の聴講者が来場しました)



濱田稔研究副主査：
水域環境の取り組み
について



津田その子研究副主査：
外来植物対策の取り組み
について



鈴木研究副主査：
希少植物保護について

国際会議に招待され日本の磁気冷凍研究を講演

今話題のレアアース産出地で知られる中国内モンゴル自治区の包頭市にて、平成22年8月23日から27日にかけて第4回室温磁気冷凍国際会議が開催されました。当社は、平成12年度以降、従来の冷凍技術とは異なる磁気冷凍技術を用いたノンフロンで高効率な冷凍システム実現に向けた研究開発に取り組んでおり、国家プロジェクトを受託し、磁気冷凍に用いる磁性材料開発やシステム開発を進めています。今回、会議主催者側から日本における磁気冷凍研究開発の状況を紹介してほしいと

の招待講演依頼を受け、電力技術研究所超電導プロジェクトの平野さんが講演と座長を務めました。

130名ほどの参加者が欧米はじめ世界各国から集まり、磁気冷凍の開発状況の紹介や実用化の動きなどの情報交換が活発に行われ、次世代の冷凍空調技術として環境にも優しい磁気冷凍技術への関心の高さが伺われました。

冬には氷点下20℃にもなる内陸部も、夏は清々しい気候が続き、日本では味わうことのできない食べ物や文化にも触れることができ、知らない世界の多いことに気づかされました。今回の経験を今後の研究に役立たせ、開発が一層推進することを期待します。



講演の様子(多くの質問が寄せられました)



フランスの研究者とともに座長を務める平野研究主査(右)